

■児童・生徒の学力の状況

○「全国学力・学習状況調査」の結果は、東京都の平均正答率と比べて、国語で9ポイント、算数で10ポイント高い。多くの児童が基礎・基本の学習内容を身に付けている。
○回答における無回答率も低く、意欲的に学ぼうとする姿も結果として表れている。

■授業革新推進に向けた、指導上の課題

○自分なりに課題解決を図ることができる児童が多い一方で、自分の思いや考えを表現することに苦手意識を感じている児童が少なくない。対話的な活動の充実を図る必要がある。
○一人一台端末を目的に応じて効果的に活用する力を向上させる必要がある。
○家庭学習において、自己の課題に応じて主体的に学習に取り組もうとする力を伸ばしていく必要がある。

■学校経営方針より（学力向上に関わる内容から）

○学力向上週間における集中的な学びにより、基礎的・基本的な知識・技能の定着を図る。
○「板橋区授業スタンダード」に基づいた一単位時間の基本スタイル（主体的・対話的で深い学びを実現する授業づくりの一つのモデル）を取り入れ、学齢に応じた児童の思考・判断・表現の向上を図る。
○「板橋区授業スタンダードS」【Select（選ぶ・選択する）、Self（自分で・自ら）】を効果的に取り入れた個別最適な学びを推進する。
○教科書の内容を的確に読み解くことを基本に、自分に必要で正しい情報を自ら得る技能と、得た情報を自分の言葉で表現する力を身に付けさせる。
○自分も相手も納得できる解答を見出したり、状況に応じてよりよく改善していったりするのための言語活動を活性化させる対話的な学習を進め、自力解決・集団解決の方途を経験的に身に付けさせる。
○一人一台端末（クロームブック）を授業、家庭学習に効果的に取り入れ、児童が学習ツールとして適切な活用ができるよう、活用方法・ルール作りを児童会活動で構築する。

■確かな学力の育成に向けての具体的な方策

視点1 板橋区授業スタンダードの徹底、及び 板橋区授業スタンダードSの取組	視点2 ICT環境の適切な維持と活用 個別最適な学び・協働的な学びの実現	視点3 総合的な学習の時間との連携
○各教科等の授業において、「学習課題・めあての設定→自力解決→集団解決→まとめ・ふりかえり」等の学習の流れの定着を図る。 ○発達段階に合わせて、自己選択・自己決定・自己調整を取り入れた授業づくりを推進していく。（板橋区授業スタンダードS）	○低学年段階からローマ字入力の学習活動に取り組むなど、情報活用スキルの向上を図るための系統的な指導を進めていく。 ○朝学習や家庭学習等の時間に「すららドリル」を活用したドリル学習を計画的に設定し、個別最適な学びの実現を図る。 ○学級活動や道徳科の時間を中心に、情報モラル学習を計画的に指導していく。	○各教科等で学習した知識等を総合的な学習の時間に生かせるようにする。また、総合的な学習の時間における体験学習等を踏まえた探究学習で得られた学びを各教科等の学習や日常生活に生かせるようにする。

■MIRAI SCHOOL いたばし-教育ビジョン2035- -アクションプラン2028-の実現に向けた具体的な取組

保幼小接続・小中一貫教育の推進	豊かな心と健やかな体の育成	多様な教育的ニーズへの対応
○低学年では「町探検」、中学年では「フィールドワーク」を通して、公共施設、史跡と触れ合いながら、加賀藩下屋敷であった地域を愛する心や郷土の発展に貢献しようとする態度を養っていく。 ○高学年では「あいさつ運動」や「クリーン作戦」等の加賀中学校や地域との交流活動を通して、地域貢献に向けて自らの考えを深めていくとともに、これからの板橋を語れる児童を育成する。	○道徳科や学級活動の授業を通して、児童の倫理観を育み、「ふれあい月間」等においていじめの未然防止・早期発見・早期対応に取り組み、人権教育を推進する。 ○年間3回のいじめアンケートや年間2回のWEBQUの結果を活用し、児童一人ひとりにフィードバックをすると共に、「SOSの出し方に関する教育」を展開する。 ○「早寝・早起き・朝ご飯」を学期の初めや休業期間の前に指導の重点を置き、健康的な毎日を送ることができるよう保健・食育の健康教育を展開する。	○すべての児童が主体的に学べるように、活動と見通しの明確化や学習環境の工夫を図るなど、ユニバーサルデザインの視点を取り入れた授業を展開する。 ○特別な支援が必要な児童について、SCや特別支援教育アドバイザー等と連携して実態の把握に努め、学校全体で対象児童を包摂しながら、自己肯定感や自己有用感をもてる支援・指導を展開する。